

子どもの学ぶ意欲を高める第3学年家庭学習の指導

授業と家庭での学びをつなぐ自主学習ノートの実践を通して

大牟田市立天の原小学校

教諭 柿園 綾香

こんな手立てによって…

授業と家庭での学びをつなぐ自主学習ノートの指導を、「自主学習の基盤作り」、「自主学習の定着」、「自主学習の効果を上げる」という段階をふまえて行った。

こんな成果があった！

- ・子ども達は、家庭学習の意義が分かり、自発的に家庭学習するようになった。
- ・子ども達は、授業での学びを深める学習が選択できるようになり、学ぶ楽しさを感じるようになった。

1 考えた

福岡県の子ども達は、宿題をする習慣は身につけているものの、自分から主体的に学習をする学習習慣は十分に身につけていないことが諸調査の結果から言われている。一方、秋田県の子ども達は自分から主体的に学ぶ習慣がしっかり身につけている。自主学習には、学習の価値を「強制されてするもの」から「自発的にするもの」へと転換させることができると考える。しかし、ただ自主学習をするだけでは「することが目的」になってしまい、子ども達の学ぶ意欲は高まらない。そこで、本研究においてこだわったことは、「子ども達が家庭学習の意義を感じられる自主学習にすること」、「家庭での学び方が子ども達に身につく自主学習にすること」とである。そこで、「自主学習の基盤づくり」、「自主学習の定着」、「自主学習の効果を上げる自主学習」という段階をふまえて、「授業につながる学習を選択する力」と「ノートスキル」が身につくように指導した。

2 やってみた

「自主学習の基盤作り」、「自主学習の定着」の段階で身につけた「学習を選択する力」や「ノートスキル」を生かして、「自主学習の効果を上げる」段階では、子ども達が自分の課題や関心に合った自主学習を選択できるように支援した。さらに、子ども達が自主学習で取り組んだことを意図的に授業に取り入れることで、「家で勉強したことが授業で役に立った。よく分かるようになった。」と感ずることができるようにした。

3 成果があった！

子ども達の自主学習ノートとアンケート結果を見ても、家庭での学び方がしっかりと身につく、何よりも子ども達自身が「学習の理解が高まった」と実感していることが分かる。さらに自発的に学習を始める習慣が身につく、学ぶ楽しさを見出したことは大きな成果である。これらのことから、子どもの学ぶ意欲を高めるために、授業と家庭での学びをつなぐ自主学習ノートに取り組んだことは、有効であったと言える。

子どもの学ぶ意欲を高める第3学年家庭学習の指導

授業と家庭での学びをつなぐ自主学习ノートの実践を通して

1	主題設定の理由	3
	(1) 社会の要請から	3
	(2) 児童の実態・指導の反省から	4
2	主題の意味	6
	(1) 子どもの学ぶ意欲とは	6
	(2) 子どもの学ぶ意欲を高める家庭学習とは	6
3	副主題の意味	7
	(1) 授業と家庭での学びをつなぐとは	7
	(2) 授業と家庭での学びをつなぐとは自主学习ノートの実践を通してとは	7
4	研究の目標	8
5	研究の構想	8
6	研究の実際	8
	(1) 自主学习の基盤づくり	8
	(2) 「自主学习を定着させる」段階	11
	(3) 「自主学习の効果を上げる」段階	12
7	全体考察	
	(1) 実践後の学習意欲変化	20
	(2) 手立ての有効性	20
8	成果と課題	22
	<参考文献>	23

子どもの学ぶ意欲を高める第3学年家庭学習の指導

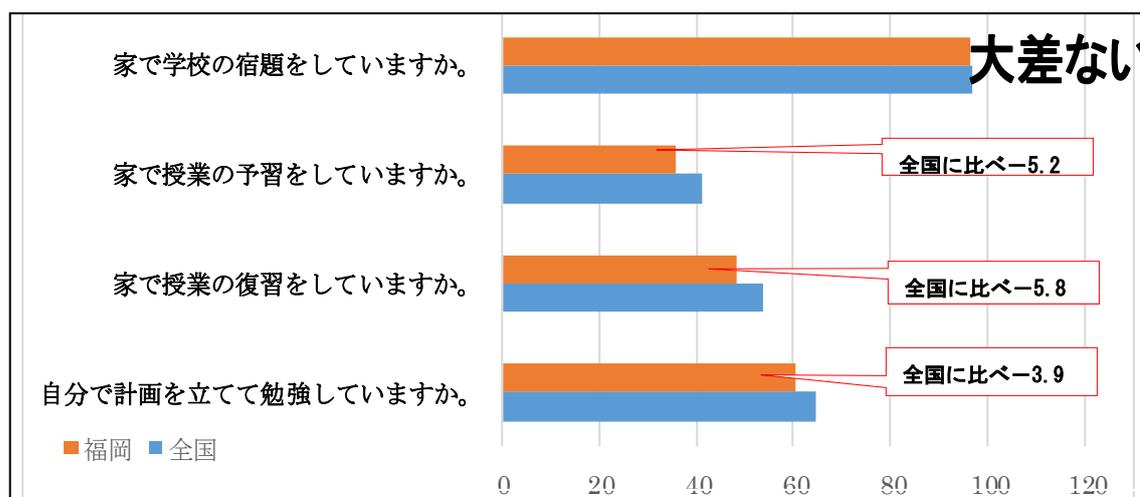
授業と家庭での学びをつなぐ自主学習ノートの実践を通して

大牟田市立天の原小学校

教諭 柿園 綾香

1 主題設定の理由

(1) 社会の要請から



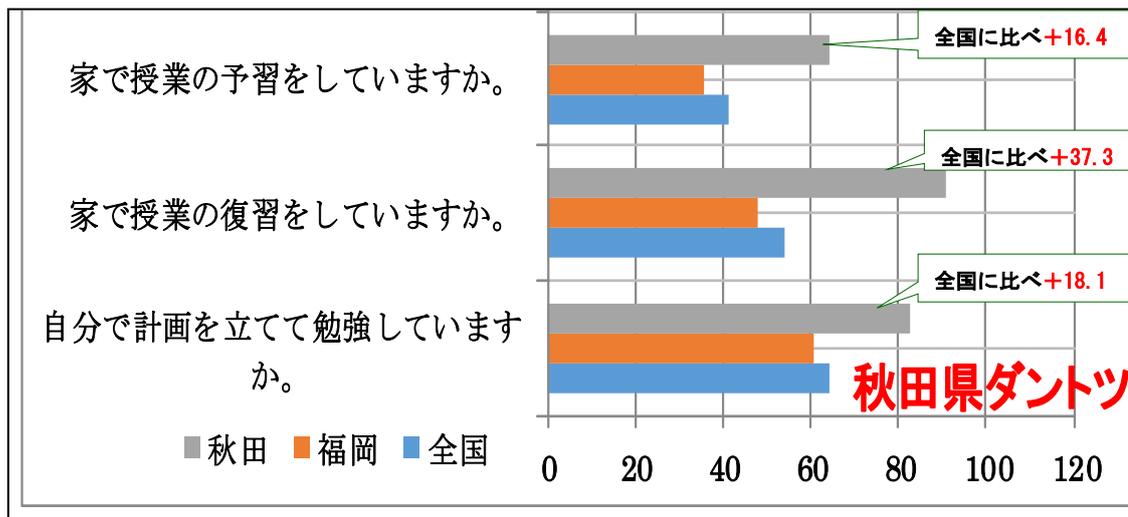
【資料① 福岡県の児童の家庭学習状況(平成29年度全国学力学習状況調査質問紙結果より)】

資料①は平成29年度「全国学力・学習状況調査」質問紙の結果である。(小学校)資料①から分かるように、福岡県の子ども達は教師から与えられた宿題はきちんとしている。しかし、予習・復習や自分で計画を立てて勉強することはできていない子が多い。これは、子ども達の家庭学習が宿題中心であり、「自主的に学ぶ姿勢やその学習の進め方」についてきちんと理解し、十分に身につけることができていないからだと考える。

また、福岡県の子ども達の学力は近年、改善傾向にあるものの「学ぶ意欲」には課題が見られる。(平成29年度「全国学力・学習状況調査」小学校の結果より)特に、「国語の勉強が好き」、「学習を普段の生活の中で活用できないか考える」などの質問項目に「当てはまる」と回答した児童は、全国平均を下回っている。その要因は多数あるだろうが、家庭学習の面から見れば、学習に対して「先生に言われたから勉強する」という受け身の姿勢になっていることが考えられる。

一方、ここ数年高い学力を保持している秋田県は、予習・復習や自分で計画を立てて勉強するなどの項目は全国平均を大きく上回っており、「自主学習」の習慣がしっかり身につけている。(P.4資料②参照)また「学ぶ意欲」は高く、特に「学校で学んだことは将来役に立つ」、「勉強が好き」などの質問項目に「当てはまる」と回答した児童は多かった。

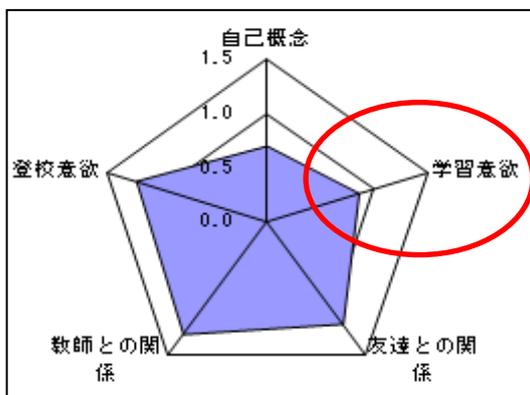
(平成29年度「全国学力・学習状況調査」小学校の結果より)



【資料② 秋田県の児童の家庭学習状況（平成29年度全国学力学習状況調査質問紙結果より）】

実は、この秋田県は県下一斉に自主学習に取り組んでいて、小学校1年生から宿題以外にも自主学習を習慣づけている。目的をもって学習する「自主学習」を早い段階から習慣づけることで、「勉強とは強制されるもの」ではなく、「自発的に取り組むもの」と学習の価値を捉えさせることができる。以上のことから、自主学習を家庭学習の習慣にすることは、子どもの学ぶ意欲を高める上で大変意義深いと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態・指導の反省から



【資料③ 本学級児童の学習意欲（H28 第2学年時学校生活アンケート結果より）】

※大牟田市で共通実施している学校生活に関するアンケート。質問項目を「学習意欲」、「友達との関係」などに分けている。

	1週目	2週目
進んでできた	48%	53%
家の人に言われてできた	45%	40%
できなかった	7%	7%

【資料④ 本学級児童の家庭学習状況（H28 第2学年時家庭学習強調週間記録表集計結果より）】

※学校全体で学期1回家庭学習強調週間を実施し、家庭学習への取組を2週間カードに記録したものを学級で、集計した結果。

本学級の児童は国語科・算数科ともに標準得点が全国平均を下回り、学力が十分に身につけていない児童が2割近くと厳しい状況である。また資料③の市で共通実施している学校生活アンケート結果からは、学習意欲の面に課題があることが分かる。（特に「勉強は楽しい」などといった質問項目の回答率が低かった。）さらに、資料④の昨年度の家庭学習状況を見ると、自分から進んで取り組めていない児童が半数近くおり、「自ら学ぶ姿勢」が十分に身につけているとは言い難い。なお、1、2年時は宿題のみで自主学習には取り組んでいない。では、なぜ学ぶ意欲が低く、家庭学習にも意欲的でないのか原因を考えた。

	考えられる主な原因
宿題の特徴の面から	決められた内容なので、学習に対して受け身になってしまい、やらされている感じがするのではないか。
家庭との連携の面から	家庭学習が家庭任せになっていないか、家庭と連携した指導ができていないか。
家庭学習の指導の面から	「させっぱなし」になってはいないか。家庭での学び方を指導し、子どもがしてきた家庭学習を学校できちんと評価できているか。
子ども達の意識の面から	子ども達が何のために家庭学習をするのか分かっていないのではないか。家庭学習したことが学校での学びに生かされているという実感に乏しいのではないか。

【表① 家庭学習の面から見た本学級児童の学ぶ意欲が低い原因 考察】

児童の実態から特に、表① 1 段目の「家庭学習に対して受け身の姿勢であること」、4 段目の「子ども達が家庭学習の意義を見出せていないこと」の理由が大きいと考える。

まず、1 段目「家庭学習に対して受け身の姿勢であること」について述べる。自主学習には、「それぞれのつまずきや課題、興味・関心に合ったものに取り組める」という特徴があるため、宿題のみならず、自主学習も取り入れることで、学習に対して意欲的になることが期待できる。

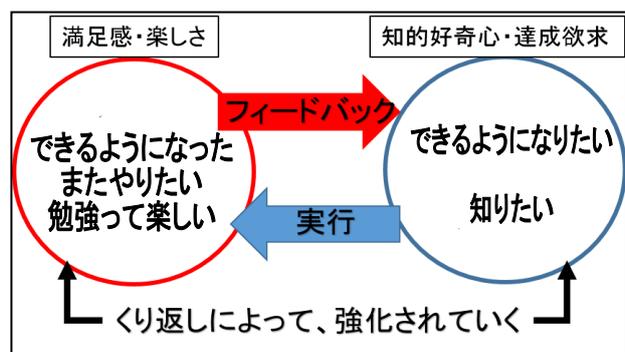
次に、4 段目「子ども達が家庭学習の意義を見出せていないこと」について述べる。子ども達が家庭学習の意義を感じるには、「家で学習したことが学校での勉強に生かされた」、あるいは「学校で勉強したことを家庭学習でもやったら、よく分かるようになった」と実感できることが大切である。そのような家庭学習を行うには、授業と家庭学習の双方を充実させ、子ども達が「自分にとって授業に役立つ家庭学習を選択できるようになること」が重要である。以上のことから、自主学習という特徴を生かして、家庭で学んだことが授業で生かされるような家庭学習を行うことが有効であると考え、本主題を設定した。

2 主題の意味

(1) 子どもの学ぶ意欲とは

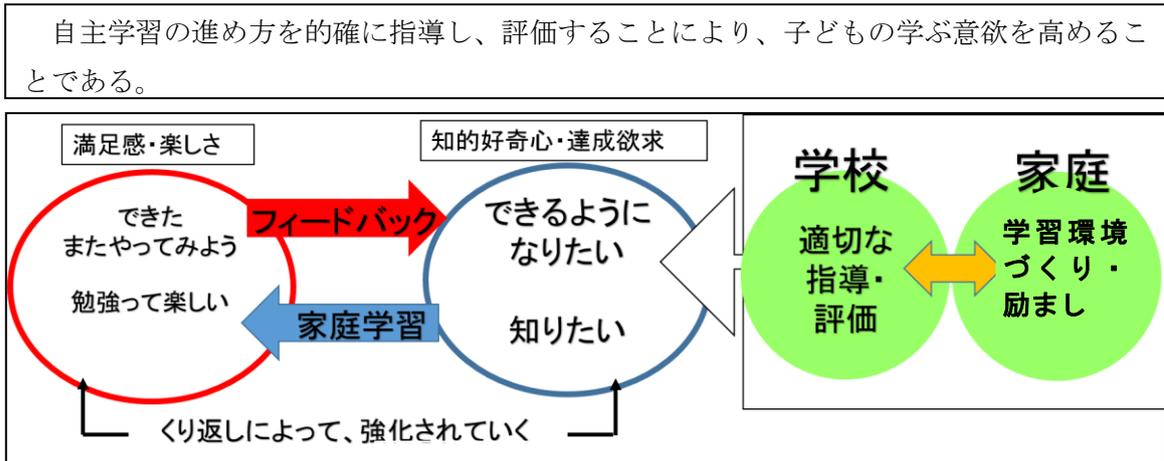
本研究において育てる学ぶ意欲とは、学ぶことの楽しさを味わいながら、「もっとできるようにになりたい」、「もっと知りたい」と自ら求めて学び続ける力のことである。そして最終的には、学力向上へつながっていく力となる。

「できるようにになりたい」、「知りたい」といった知的好奇心や達成欲求によって学習行動を起こし、その結果「勉強って楽しいな」、「またやってみよう」といった自ら学ぶことのよさを実感する。そのプラスの感情が、知的好奇心や達成欲求にフィードバックされることで学ぶ意欲はさらに強化されると考える。



【図① 本研究における学ぶ意欲の考え方】

(2) 子どもの学ぶ意欲を高める家庭学習とは



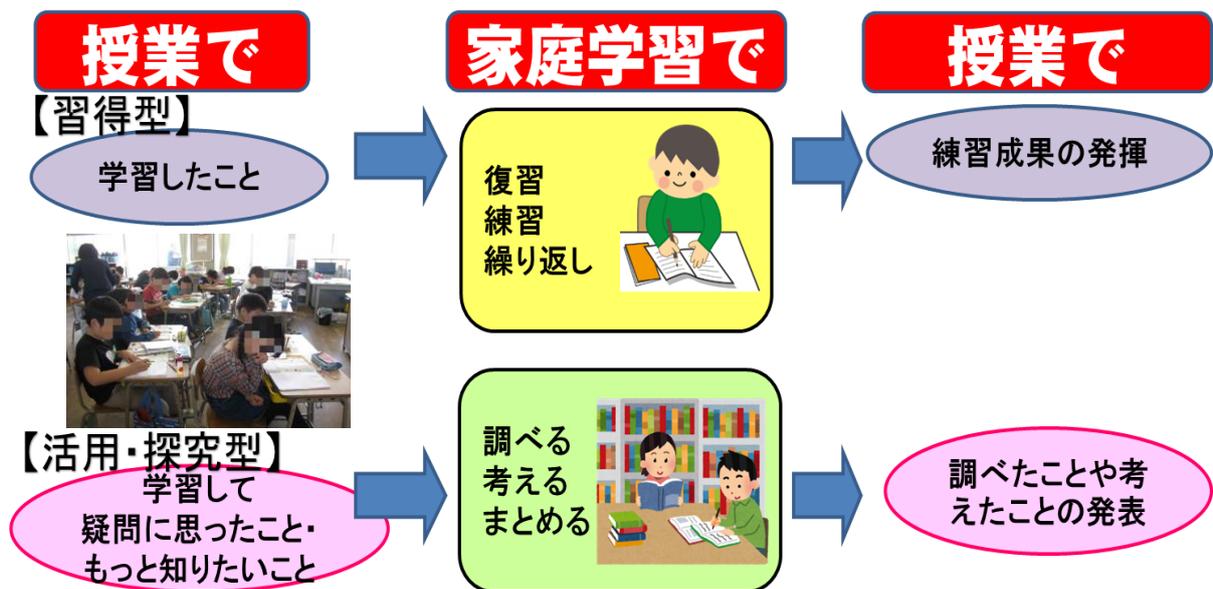
【図② 学ぶ意欲を高める家庭学習】

「もっとできるようにになりたい」、「知りたい」など子どもの意欲的な学習行動を引き起こすには、「やればできそうだ」といった自分で学ぼうとする行動を支える気持ちが重要である。そこに手をかけるのが教師の役目であると考え。まずは、子どもが学ぶことの楽しさを味わえるような「自主学習の進め方」を丁寧に指導すること、そして子どもが学習したことについてそのがんばりや成長を価値づけ、評価する。改善点は個に応じて指導し、次への目標を持たせるようにする。さらに本研究では、学習の場が家庭であることから、家庭でも指導と評価が行われるように家庭と密な連携を図り、子どもの学ぶ意欲を高めていく。

3 副主題の意味

(1) 授業と家庭での学びをつなぐとは

子どもが家庭で、授業の内容を自分で復習したり発展させたりしたことを意図的に授業に取り入れることで、学習の効果を高めることである。

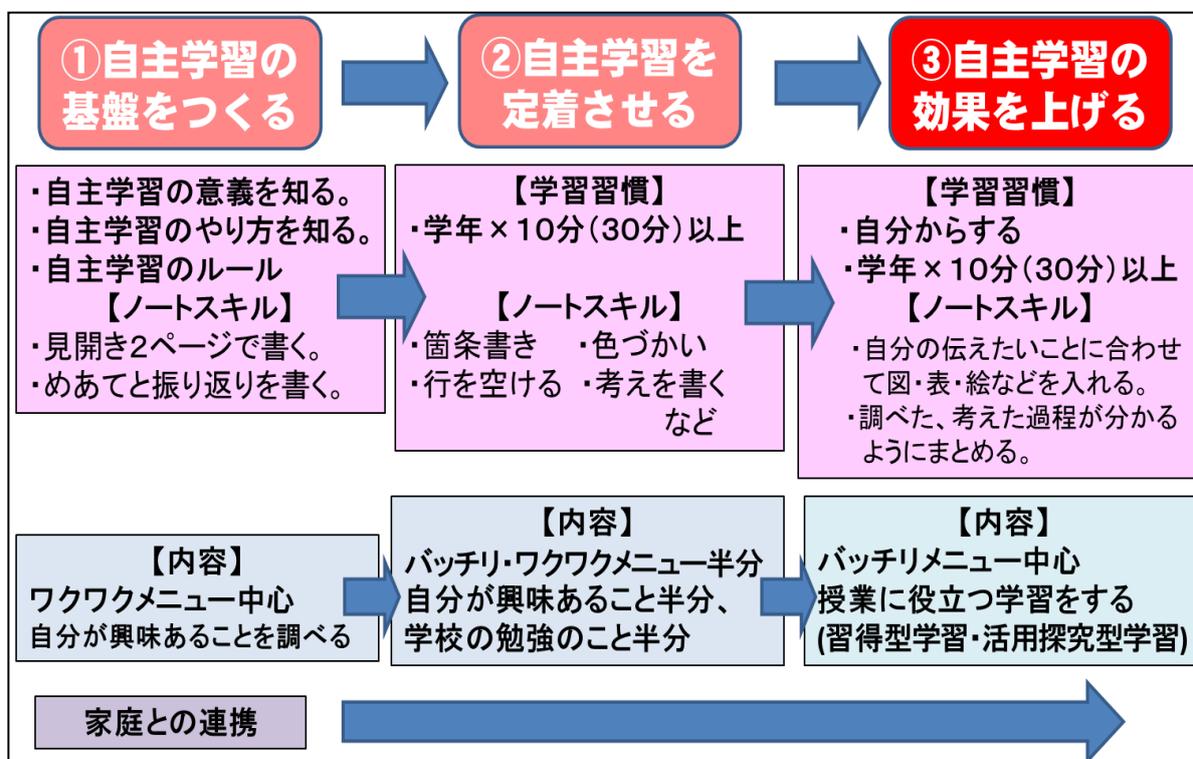


【図③ 授業と家庭での学びをつなぐ仕組み】

本研究では家庭学習を、基礎的な知識・技能の習得をねらう「習得型」とそれを活用して思考力・判断力・表現力の育成をねらう「活用・探究型」の二つとする。(P6 図③参照)「習得型」は、例えば「もう一回間違えた問題を解く」、「授業で学んだことをもう一度整理して自分でまとめる」などである。「活用・探究型」は、例えば「理科で分かったことを日常生活の中で探す」、「国語で学んだ読みの力を生かして他の本を読んでみる」などである。それらの学習を授業に位置づけ、子どもが「家で勉強したから授業がよく分かった。」、「家で勉強したことが授業で役に立った。」と家庭学の習の意義を感じられようにする。

(2) 授業と家庭での学びをつなぐ自主学习ノートの実践を通してとは

「授業と家庭学習が両輪となって学習効果を高める」ために、「自主学习の基盤づくり」、「自主学习の定着」、「効果的な自主学习」と段階的に指導していくことである。



【図④ 授業と家庭での学びをつなぐ段階的な指導】

それぞれの段階において、「学習内容」、「学習スキル」二つを段階的に高めていけるようにする。まず「自主学习の基盤作り」の段階では、「自分から学ぶ」心構えを持つ段階である。次に「自主学习の定着」の段階では、自分で学ぶスキルを身につけていく段階である。学ぶスキルは、家庭で「何を学習するか【内容】」、「どうやって学習するか【学習習慣】・【ノートスキル】」二つあると考える。ここでは「どうやって学習するか【学習習慣】・【ノートスキル】」を鍛えていくことを重視する。最後に、「自主学习の効果を上げる」段階では、「何を学習するか【内容】」を重視する。つまり、学習の効果を上げるために「授業に直結する自主学习」が選択できるように鍛えていくということである。ここでは、前段階で身につけた「学習習慣」や「ノートスキル」を生かし、「授業で学習したことの理解を深めるための自主学习」ができるようにしていく。

4 研究の目標

子どもの学ぶ意欲を高めるために、第3学年の家庭学習の指導において、授業と家庭での学びをつなぐ自主学習ノートの有効性を検証する。

5 研究の仮説

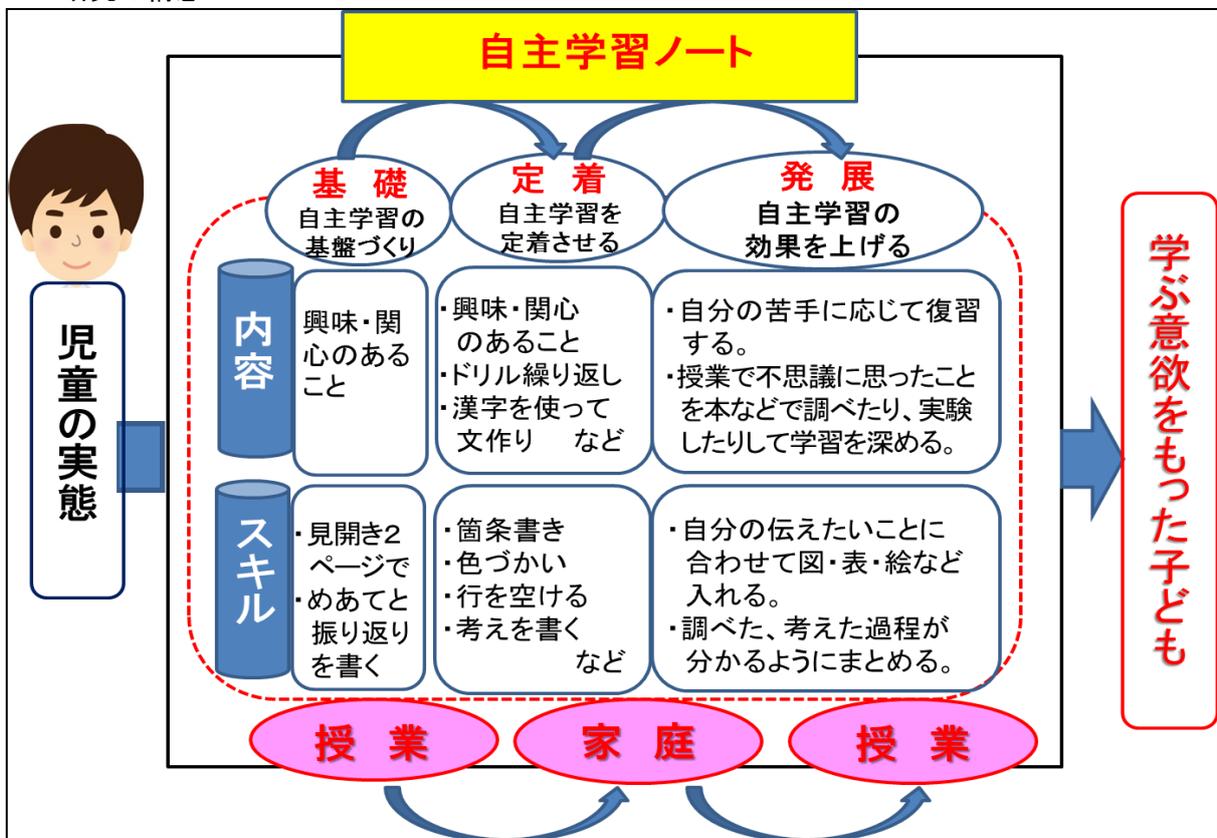
授業と家庭での学びをつなげ、家庭で行う自主学習ノートを活用した学習について、以下を重点とし取り組めば、学ぶ意欲をもった子どもが育つであろう。

重点Ⅰ：自主学習ノート指導を「基礎段階」→「定着段階」→「発展段階」とした段階的指導

重点Ⅱ：「学習内容を選択する力」と「ノートスキル」の育成を図る取組内容を明確にした指導

重点Ⅲ：自主学習したことを意図的に授業に取り入れるとともに、授業での学びを自主学習で更に深める指導

6 研究の構想



7 研究の実際

(1) 自主学習の基盤づくり

① 子どもへの指導

この段階でのねらいは、「自分から学ぶ」心構えを持たせることである。これまで子ども達は、教師から与えられた宿題のみをやっていたため、初めての自主学習になる。そこでこの段階においては、学習内容を細かく限定せず（興味関心のあることをする）、「家庭での学び方（よいノートの作り方、学習ルールなど）」を指導することに重きを置く。そして、「自発的に学ぶことの大切さ」や「自分で学習することを選んで学ぶ楽しさ」を理解してほしいと考えた。まずは、自主学習を始めるにあたり、「なぜ自主学習をするのか」、「どうやって自主学習をするのか」について学級活動1時間を使って、指導した。

学習の展開

1 「なんのために自主学習をするか」について話をする（5分）

①宿題とは違う、自主学習。今日は、自分で考えて工夫する自主学習について学んでいきます。

②めあて：自主学習について知ろう

③自主学習は、自分で学習する内容を選んだり、学習の仕方をいろいろ工夫したりします。宿題は、先生が「これをしてきなさい。」と言った決まったものですよね。自分で考えて工夫をすることが宿題と自主学習は大きく違います。

④みんなは、お家の人に「宿題やったの？」と聞かれて嫌々宿題をやったことありませんか？
実は、人からやらされる学習はあまり効果がありません。自主学習は、自分で内容を選んだり、工夫できたりするので学ぶ楽しさがあります。楽しく勉強すると少しずつ力がついてくるし、やる気もアップします。自然に、「自分から進んで」お家での学習ができるようになります。

⑤また、自主学習で楽しい学びを積み重ねていくことで、「こうやってノートをまとめると力がつくんだな。」「こんな復習（学校での勉強を振り返って家で学ぶこと）をすると力がつくんだな。」ということが分かり、学習の仕方や学び方も身につきます。その学び方はみんなが中学校に行ったとき、大人になったときも使える学び方なんです。

2 「自主学習のやり方（ルール）について」指導をする（5分）

①自主学習の2つのルールを伝えます。（スライドに提示）

- きれいにせいりした、勉強道具しかない机の上です。
- 学年×10分間、決まった時間に毎日やる。
- ながら勉強しない。（テレビを見ながら、お菓子を食べながら）

②次にノート作りの3つのルールを伝えます。（スライドに提示）

- 見開き2ページみっちりやる。
- 日付、時間（何時に始めて、何時に終わったか）を書く。
- ふりかえりを書いて、お家の人にコメントをもらう。



【資料⑤ 自主学習ノートの指導】

③バッチリメニューとワクワクメニューについてお知らせします。

（スライドに提示）

バッチリメニューとは、学校での学習内容に直接結びつくメニュー

（漢字と計算が基本。テストの間違い直しなど）

ワクワクメニューとは、自分がワクワクできそうな楽しい学習。

（自分の好きなことや興味のあることを調べて、まとめてみる「調べ学習」が中心。そのほか、運動、お手伝い、料理などいろいろ工夫できる。）

3 「自主学習」のやり方にそって、練習をさせる。（30分）

①（自主学習練習プリントを全員にコピーし、同じプリントを拡大して黒板に貼った。）

まず、日付と曜日、始めた時間を書きます。次に、何を学習するのか意識してほしいので、めあてを自分で考えてここに書きます。（と、教師が黒板ノートに書くのと合わせて習プリントに書かせていく。）

②（実際にやってみる自主学习をやってみる時間を設ける。）

日付・曜日を書く

かかった時間を書く

<p>No. _____ 月 日 曜日</p> <p>パッチリメニュー</p> <p>めあて</p> <hr/> <p>算数</p>	<p>No. _____</p> <p>ワクワクメニュー</p> <p>めあて</p> <hr/> <p>(まとめ)</p> <p style="text-align: center;">振り返りを書く(自己評価)</p> <p>ふりかえり よかった点 かいぜん点</p>
--------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

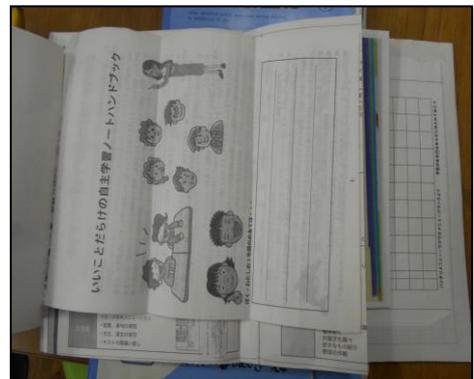
保護者からのコメントと教師からのコメント(他者評価)

コメント

【資料⑥ 自主学习練習プリント】

授業後、「これからのお家での学習が楽しみ。」「勉強の力がつきそう。」との声がたくさん聞かれ、自主学习に意欲的な姿勢が見られた。

また、子ども達が家庭で学習するときに困らないよう「自主学习ハンドブック」を作成し、ノートの最初のページに貼らせ、いつでも見ることができるようにした。自主学习ハンドブックには、「自主学习の意義とやり方について（学活で子ども達に指導したことをまとめたもの）」、「お手本の自学ノート」を載せた。



【資料⑦ 自主学习ハンドブック】

- ことわざ調べ
- 四字熟語調べ
- 点字さがし
- 数の不思議
- 都道府県調べ
- 世界の国旗
- 新聞コメント
- 英語調べ
- お手伝いのコツ
- 不思議に思った

これらの自主学習を実行していくには、家庭との連携が何より重要となる。そこで子どもへ向けた「自主学習ハンドブック」(資料⑦参照)の後ろに「保護者へのお願い」をつけた。保護者の方に読んでもらい、連絡帳へサインをもらってくるよう、子ども達に伝えた。

更に、学級懇談会で「自主学習の意義」と「自主学習の進め方・お願い」を話した。

保護者の皆様へ

いつも温かく学校教育にご協力していただき、本当にありがとうございます。子ども達と一緒に過ごしていく中で、子ども達に勉強することの楽しさをたくさん味わってほしいと思うようになりました。自主学習ノートでは、学習のやり方を身につけることができます。そしてその力は生涯続いていく学びを豊かにしてくれるはずです。

自主学習は、学校だけ、家庭だけの取り組みで実現するものではありません。学校と家庭が連携し、子ども達にやる気を起こさせることが大切です。日々の本当にお忙しい中、いつもお願いばかりで申し訳ございませんが、ご協力をお願いいたします。

【保護者の皆様へお願い】

- ① 子ども達に自主学習が終わったら、お家の方に見せるように言いますので、ノートをチェックしてノートにコメントをお願いします。やる気アップのため、頑張っている点を見つけて、ほめてくださいますようお願いいたします。
- ② ドリル系の自学は自分で○付けをさせてください。間違いがあったら必ず見直す習慣をつけるようご指導ください。
- ③ 整った環境で学習できるよう、テレビを観ながら、ゲームをしながらなど「～ながら」勉強がないこと、整理された机上で行うことなど、ご指導お願いします。

【資料⑧ 保護者へのお願いお便り】

(2) 「自主学習を定着させる」段階

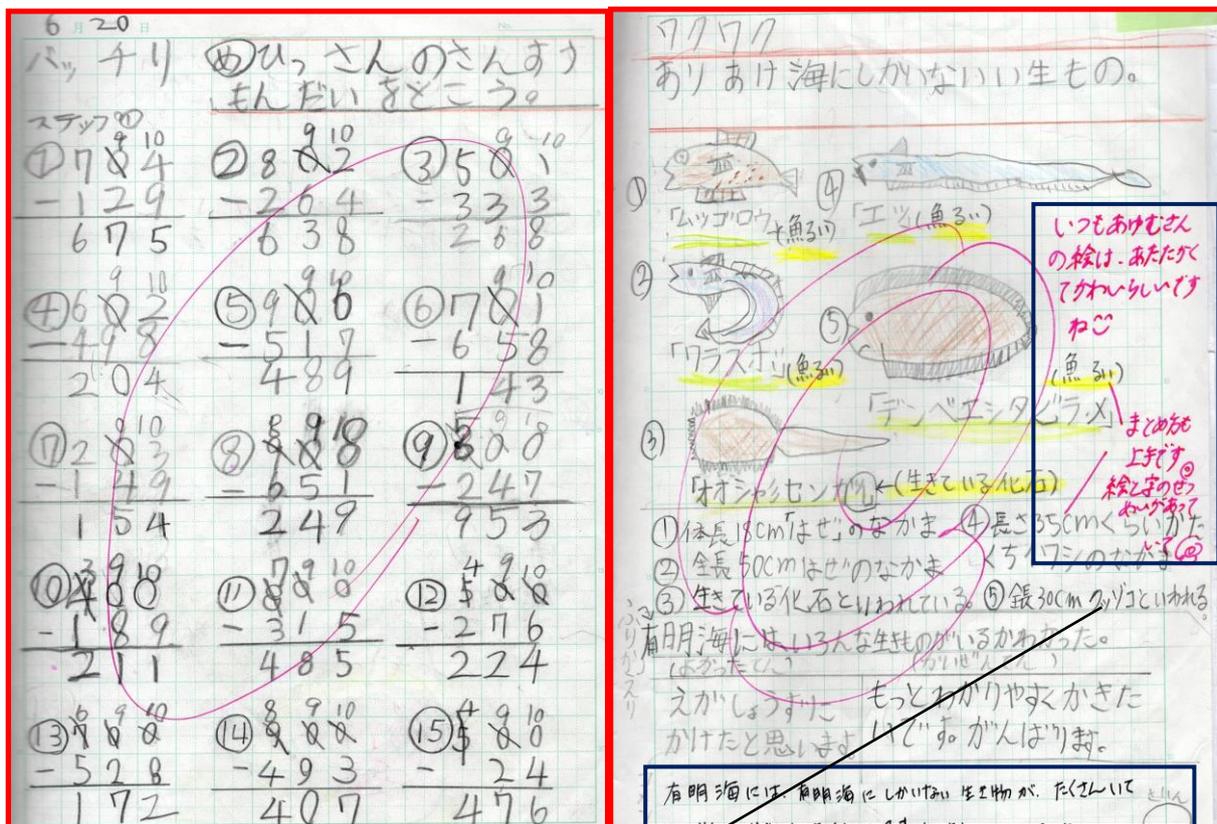
この段階のねらいは、前段階「自主学習の基盤作り」で指導したこと続けて、習慣化すること、ノートスキルを一つずつ定着させていくことがねらいである。そのため、帰りの会では毎日「よいノート」を紹介する時間を設け、そのノートを見せながら「どんなところがよいのか」話をしたり、子ども達に考えさせたりした。指導した主な内容は以下の通りである。

- ・行の空け方 (行を空けると見やすい)
- ・色の使い方、線の引き方
(大事なところは色で目立たせる、線を引くなどすると目立って分かりやすい)
- ・矢印、記号の使い方 (「その結果」、「次に」と言いたい時に、矢印や記号を使うと、考えが整理される。)
- ・図や写真、表、グラフなど資料を使う (伝えたいことに合った資料を入れると、よく伝わる)
- ・自分の考えを入れる (疑問に思ったこと、感したことを書く、学習への理解が深まる)
- ・出典を書く (調べ学習の基本、著作権について)
- ・調べ学習の過程 (「調べた動機→調べて分かったこと→自分の考え→まとめ」とまとめていくと、何を伝えたいのかよく分かる。自分も学習したことが整理される。)



【資料⑨ 自主学習ノートを見せて指導】

また、子どものノートには毎日、コメントをつけて返すようにした。更に、個別に呼んで自主学習の内容やノートのまとめ方を一緒に考えるなどした。



【資料⑩ 「家庭との連携」を図る自主学習ノート】

保護者に自主学習の意義とやり方をしっかりと伝え、協力を要請したことにより家庭と連携することができた。特に、教師だけでなく保護者からもコメントをもらい、学校と家庭双方から同じ方向で指導していったことが、子どものやる気を引き出し、ノートのまとめ方もどんどん上達していった。

(3) 「自主学習の効果を上げる」段階

自主学習の学習習慣が定着し、ノートスキルも身につけてきた段階で、次の「自主学習の効果を高める」段階へとつないでいくことを考えた。この段階のねらいは「授業に直結する自主学習」を選択する力をつけ「学習の効果を上げる自主学習」ができるようになることがねらいである。この頃の子供達は、自主学習内容がマンネリ化してきた様子だったが、中には授業と結びつけた自主学習ができている子も数名いた。そこで、学級活動年間計画「家庭学習を見直そう」の時間を使い、授業と結びつけた自主学習の仕方を指導したり、友達同士で学び合わせたりした。

実際の授業の学習活動と子どもの反応	教師の手立て
1. 課題をつかむ 【自主学習アンケート結果】 ・どんなノートがいいノートか分からない。(3人) ・何を自主学習でするか悩むようになった。(15人) ・その他。(2人)	○事前に自主学習のアンケートをとっておき、提示することで、課題を明らかにした。
2. 原因を追求する ・たくさん好きなことや興味があることを調べてきたので。 ・授業の予習や復習の仕方が分からない。	○自主学習ノートを振り返らせ、原因がどこにあるのか把握させた。

<p>3. 見つける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなのノートを見る。 ・授業と結び付けてやっている上手な人のノートをまねする。 ・先生に教えてもらう。 	<p>○自分が一番自信のあるノートを机の上に置き、全員の机の間を回ってノートを見ることができるようにした。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・みんな色を使ったり、図を使ったりしてノートが見やすくなっていった。 ・〇〇さんは、算数の授業で勉強したことをノートにまとめていたよ。 	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>授業で</p> <p>学習したこと</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>自主学习で</p> <p>復習 練習 くり返し</p>  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>学習して 不思議に思ったこと・ もっと知りたいこと</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>調べる 考える まとめる</p>  </div> </div>	<p>【資料⑩ 自学ノートギャラリーウォーク】</p> <p>○ノートのスキルがよくなっていた点を出させ、これは今後も続けていくことを確認した。その後、<u>授業と結び付ける自主学习のやり方は主に二つある</u>ことを知らせた。そして具体的な例を提示した。</p>
<p>4. 決める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは、算数で間違えた問題を、もう一回自主学习でやってみたい。 ・わたしは、理科で気になったことがあったから、それを図書室で調べたい。 	

「授業に直結する自主学习」を子ども達が選択できるようになるために、資料で示している「教科ごとの学びの手引き」を作成し、P. 10資料⑦の「自主学习ハンドブック」に追加してノートに貼らせた。学習内容の選択にとまどいを感じている児童には特に、帰りの会などでこの手引きを見せながら、学習内容を一緒に考えたりした。

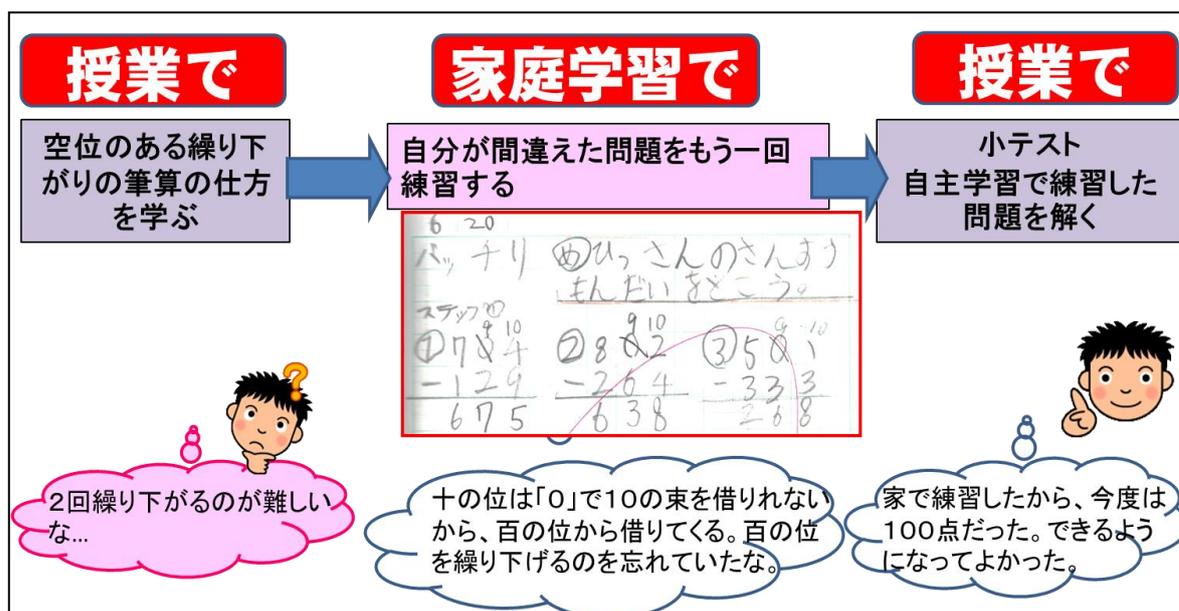
<p>国語 </p> <ol style="list-style-type: none"> ①テストのまちがい直し ②漢字の書き順や・成り立ち調べ ③新しく習った漢字で日記を書く ④授業で学んだ読みの力を使って、他の文章を読んでみる ⑤授業で勉強した物語文と同じ作者の本を読んで、「作品の心」を見つける ⑥国語の予習(教科書文の視写、意味調べ) 	<p>算数 </p> <ol style="list-style-type: none"> ①テストのまちがい直し ②まちがえた教科書問題やドリル問題をもう一度する ③授業で学習したことをもう一度ノートにまとめる(授業でやった算数問題のポイントかい説) ④算数の文章問題づくり(式と答えも) ⑤生活の中から問題を見つける ⑥算数の予習(次の授業の教科書問題にちょうせん、分からないところ探し)
<p>理科 </p> <ol style="list-style-type: none"> ①テストのまちがい直し ②授業で学習したことをもう一度ノートにまとめる(ポイントかい説など) ③家にある道具を使い、授業でやった実験をして、ノートにまとめる(同じこと言えるか) ④実物・本などを使って授業で気になったことを調べてノートにまとめる ⑤理科の予習(実験の手順、ぎ問に思うこと) 	<p>社会 </p> <ol style="list-style-type: none"> ①テストのまちがい直し ②授業で学習したことをもう一度ノートにまとめる(ポイントかい説など) ③授業で不思議に思ったことを、本で調べた、インタビューするなどしてノートにまとめる。 ④社会の予習(ポイントをまとめる) <p>★これは、あくまでも例です。みんなのすてきなアイデアでじゃんじゃん工夫して下さい。</p>

【資料⑫ 教科ごとの学びの手引き】

以下、実際の授業と家庭学習をつなぐ実践例5つを P6 から述べていく。なお、5つの実践例でも、上資料⑩の「学びの手引き」を使っている。

① 習得型家庭学習の実践例①（算数科「3桁のたし算とひき算」）

授業と家庭学習をつなぐために、終末段階において、授業で解いた同じ問題を次時にテストすることを予告した。そのため家庭学習では、「自主学习ハンドブック（算数編）」を見て、「間違えた問題をもう一回解く」コースを選んでくる子が多くいた。そして、「できるようになりたい。」という達成欲求をもって自主学习で間違えた問題の練習に励んだ。予告したとおり、次の授業の導入で練習の成果を発揮できる場を設け、同じ問題のミニテストをした。子ども達は「家庭学習で練習したからできるようになった！」と家庭学習の意義を実感することができた。また、間違えた問題を繰り返し解くことで、計算技能を確実に習得することができたため、「次も頑張ろう。」という達成欲求につながり、学習意欲は更に強化された。

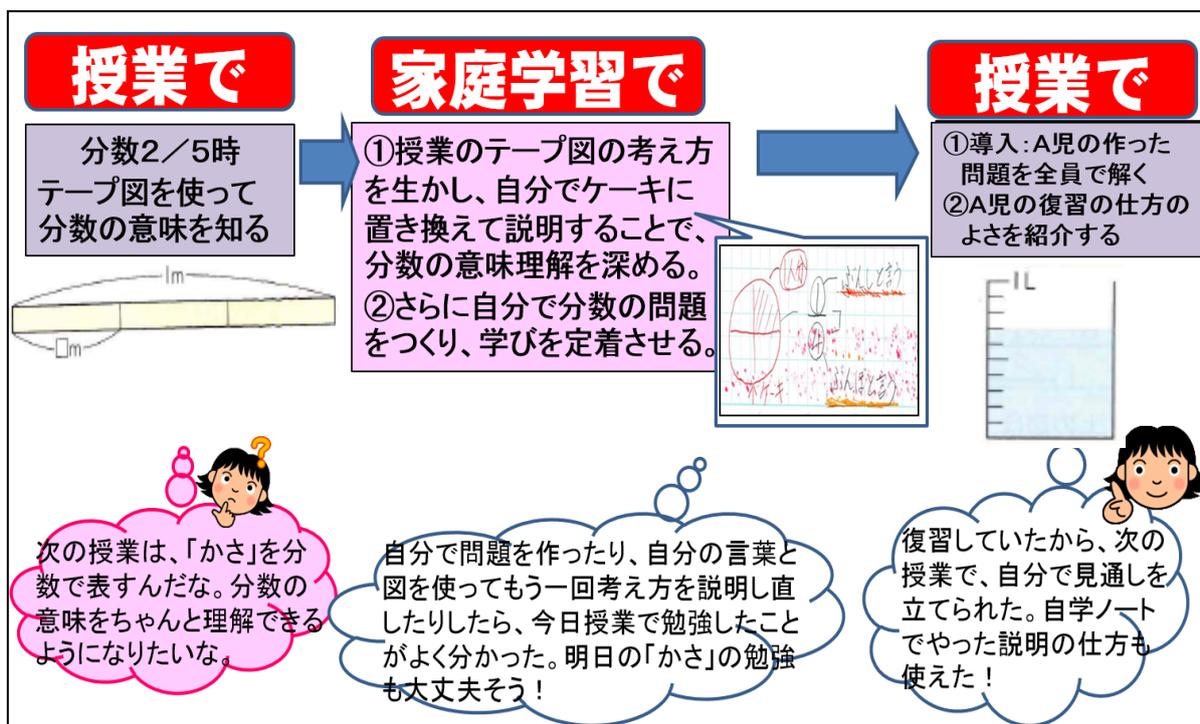


【図⑤ 算数科習得型家庭学習の実践例①】

② 習得型家庭学習の実践例②（算数科「分数」）

授業と家庭学習をつなぐために、終末段階において次時の学習を予告しておき、見通しを持たせた。そのことで、子ども達は「次のために、ちゃんと理解しておきたい。」と意欲を高めた。家庭学習では、「自主学习ハンドブック」から「同じ問題を解くコース」や「次の授業の教科書問題に挑戦するコース」など様々なことを選んでいた。A児は自主学习で授業の復習をしており、「自分で問題を作って解くこと」と「自分で考えた図を使って分数の意味を説明すること」をしていた。(P15図⑦参照) そのため、A児は前時の学習内容がしっかりと定着しており、次時の授業では、単位が「長さ」から「かさ」へと変わっても「前時と同じように考えるとよい」という見通しを持つことができた。また次時の導入では、A児が自主学习でつくってきた問題を全員に解かせ、前時の振り返りをした。A児は、「自主学习でやったことが授業の役に立った。」と家庭学習の意義を感じることができ、「次もやってみよう。」と意欲を持つことができた。さらに、A児の自主学习ノートを見せ、「よい復習の仕方」（自分で問題を作って解く、授業ノートの丸写しでなく、自分なりの図と言葉で説明している）を紹介し

た。このようにA児だけでなく周りの子達にとっても、よい復習の仕方が分かる機会となった。



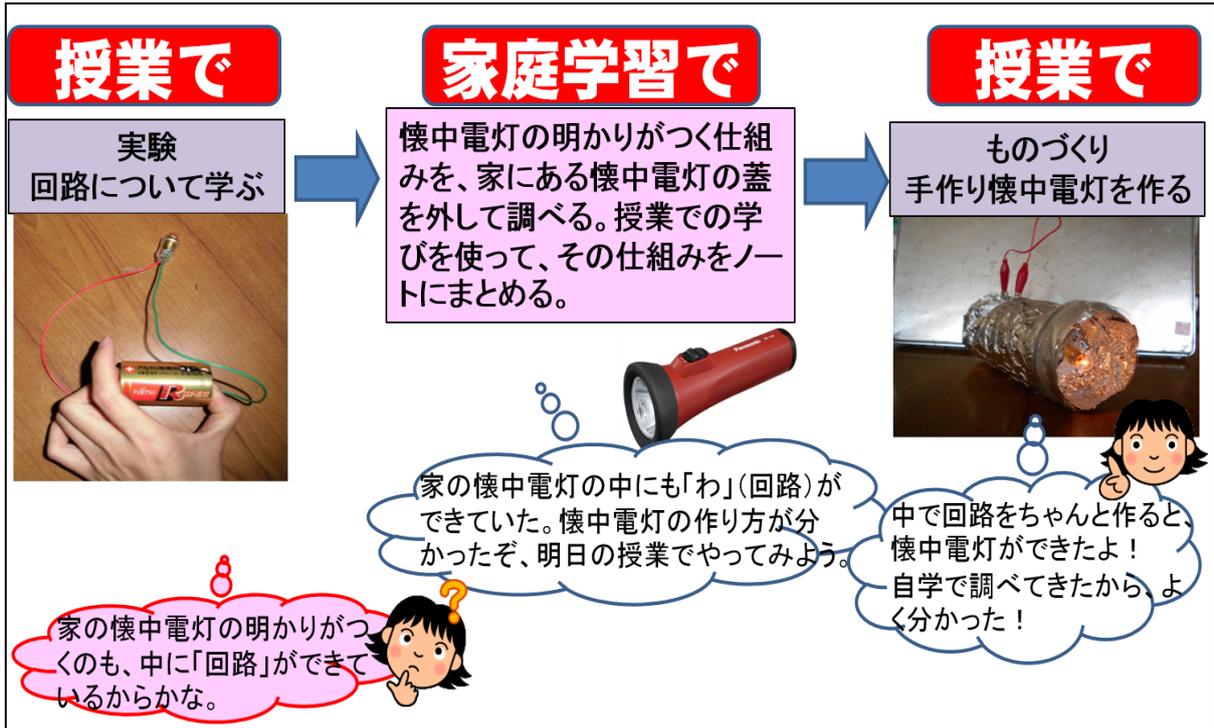
【図⑥ 算数科習得型家庭学習の実践例②】

③ 活用・探究型の実践例①（理科「豆電球に明かりをつけよう」）

導入で、教師自作の「手作り懐中電灯」を見せ、「懐中電灯の作り方を知りたい。」と子ども達の興味関心を高めておいた。「懐中電灯を作るために、これから学んでいく」と単元を貫く問題解決学習になるように、単元を構成した。そのため、回路を学ぶ授業が終わった後、「きっと懐中電灯の中は回路ができていないに違いない、だから明かりがつくんだ。」という知的好奇心を引き出すことができた。また「できる人は家の懐中電灯で調べてごらん。」と声かけしたこともあり、多くの子が「自主学习ハンドブック」の「気になることを実物や本を使って調べる」コースを選んでいった。(P16 図⑦参照)

子ども達は、次の時間が「手作り懐中電灯を作る」とものづくりの授業であることが分かっていたため、家にある市販の懐中電灯の蓋を開けて中の仕組みを調べた子もいた。さらに、教師が単元導入で見せた手作り懐中電灯と市販の懐中電灯の仕組みを比べてまとめた子もいた。(P16 資料⑫参照)

次時のものづくりの授業では、教師の少ない説明だけで、教え合いながら作っていた。授業で「知りたい。」という知的好奇心を高め、家庭学習で挑戦し（懐中電灯の中の仕組みを調べる）、さらに授業では家庭で調べたことを使ってもものづくりができた。この過程が、「自分の力でできた。」という満足感へつながっていったと考える。(P16 図⑦参照)



【図⑦ 理科活用・探究型家庭学習の実践例③】

1.31. 119

パッチリ④豆電球のいろいろでんどのしくみを調べよう。

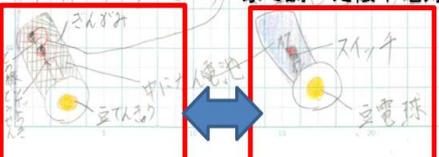
① みなさん！いろいろでんどのあかりましたか？いつが役に立ちますね。では、今、勉強している豆電球のいろいろでんどのしくみいろいろ知りましょう。

授業で学んだことをものづくりに生かす

② 豆電球のいろいろでんどのしくみ(初めての方向)

懐中電灯の中、電気にいん形の部品は、豆電球、かん電池です。でも、今日のは、ここのところは同じだけれどあとは、よう線、ソケットつきどう線と、こんなものとき作りなのでさん紙です。お店のと

次時作る懐中電灯 家で調べた懐中電灯



人と呼ばれるように書く表現力のスキル

授業と家庭学習をつなぐ記述

強調整せたいことは大きく線を引く表現力スキル

これまでの授業で学んだ回路のこと 1.31. 120

① (回路について)

さらい

電流はいつも同じ方向に流れ、その大きさに変化はありません。

大 効

このような電流の流れ方を直流と言います。回路を直流回路と言います。これいじょうは、さすがの力でまた、こんど!! これには、覚えておきましょう。

ふりかえり

よかった点 かいせん点

絵がかけた なし

お店のと、手作りのとくらべたところがやっぱりいいですね!! いいアイデアですね!! じょうぶなものでできている。

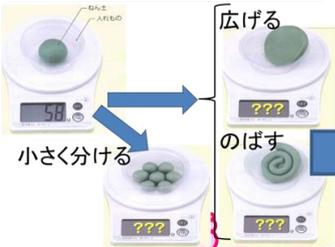
【資料⑫ 理科活用・探究型家庭学習の実践例③の自主学习ノート】

④ 活用・探究型の実践例②（理科「ものの重さ」）

授業（実験②）で子ども達は、同じ体積の木、鉄などの重さを図る実験をし「体積が同じでも、物の種類が違くと重さは変わる」ことを学んだ。しかし、授業終末で「同じ体積の塩と砂糖の重さはどうかな？」と尋ねると、「変わる。」「変わらない。」と意見が割れた。教師の演技実験によって「どんなに見た目が似ていても、物の種類が違くと重さは変わる。」ことを確認し、学習への興味・関心を高めた。さらに「同じ体積の液体だとどうだろう？」と投げかけておいた。B 児は「自主学习ハンドブック」の「もう一度実験をやってみるコース」を選んだ。そして「しょうゆ・お酢・みりん」の体積を同じにしてキッチンスケールで重さを図り、「たとえ液体でも(同体積の)、種類が違くと重さは変わる」ことを自学ノートにまとめてきた。(P18資料⑬参照) また、B 児は授業（実験①）においても家にある身近な物で調べていたため、単元のまとめの授業では、B 児に家庭学習で調べたことを発表させ、周りの子達の学習の理解も深めることができるようにした。授業で感じた「他の物はどうだろう？同じことが言えるかな？」と知的好奇心が家庭学習につながり、「学んだことは生活とつながっているんだ。」と学ぶ楽しさを味わわせることができたと考える。

授業で

実験①
「物の重さは形を変えても変わらない」ことを学ぶ

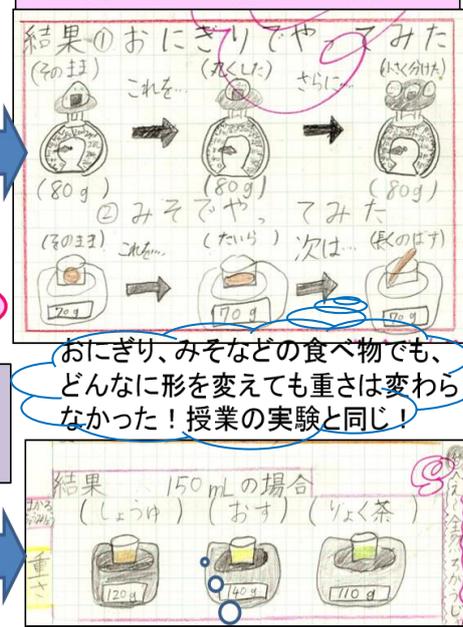


実験②
「体積が同じでも、物の種類が違くと重さは変わる」ことを学ぶ



家庭学習で

家にある身の回りの物で実験をし、学習したことと本当に同じことが言えるのか調べてくる。



授業で

単元のまとめ
自主学习で調べてきたことを発表

粘土やアルミ箔は、分かったけど、他の物は？どんな物も本当にそうなのかな。

おにぎり、みそなどの食べ物でも、どんなに形を変えても重さは変わらなかった！授業の実験と同じ！

150mlの醤油、酢、緑茶、の重さは全然違った。液体でも授業の実験と同じことが言えるんだ！

みんなに発表することで、自分の考えももう一回整理された。みんなも勉強がよく分かったと言ってくれてよかった。

生活の中の身近な物、どんな物でも「重さを変えても形は変わらない」と分かった。Yさんの発表を聞いて、勉強したことがもっとよく分かった。

【図⑧】 理科活用・探究型家庭学習の実践例④】

11月21日 4:50~ 21

フクフク 理科の実験をしてみよう。

理科で分かったこと
ものは形をかえても重さはかわらない。

家にあるものでやってみよう!

結果① おにぎりやってみた
(そのま) これを (丸くした) さらに (はく分け)
(80g) (80g) (80g)

結果② みそやってみた
(そのま) これを (たいら) 次は (長い棒)
(70g) (70g) (70g)

結果から言えること(考察)
わたしは重さはちがうと予想して
いました。結果は同じで、しょう
ゆは120g、おすは40g、りょく茶
は110gでした。つまり、えきたい
も、同じ体積でも、しるいかち
がうと重さもちがうと言えます。

授業と家庭学習をつなぐ記述

自分の考えを書く

問題↓結果↓考察の問題解決過程
学び方が身についている

重さ

ふりかえり
よかった点
かいせん点
二回して、はとくになし。
きりさせた。

えー!! かわいい実験ですわ♡
たくさん、気になることを実験してみたい!!
ありがとうございます!!

【資料⑬ 理科活用・探究型家庭学習の実践例④の自主学习ノート】

⑤ 活用・探究型の実践例③ (国語科「人をつつむ形」)

授業で子ども達は、「観点に沿って読む」力と「観点に沿って読むことのよさ」を学んだ。最後は、「観点に沿って整理して書く」という筆者の述べ方の工夫を生かして、「世界の家までイッテキューブック」を書く言語活動を設定していた。筆者の述べ方の工夫を学ぶ授業が終わった段階で、次時から「イッテキューブック」の作成に入ることを確認しておいた。「どの家もその土地の特徴や人々の暮らしに合わせた家のつくりになっているのかな。」とも投げかけておいた。(P 19 図⑨参照) 次時から子ども達は図書室の本や教師が渡した資料を使い世界の家を調べたが、家庭学習でも子ども達の多くは、「授業で学んだ読みの力を使って、他の文章を読んでみるコース」を選んだ。(P 19 資料⑭参照) そして学習で身につけた「観点に沿って読む力」を生かして、教材文以外の文章も読むことができた。「授業で身につけた力を他でも使ってみよう」という挑戦欲求を刺激したことで家庭学習に励み、次の授業でイッテキューブックを書けたことから「学んだことを使って、自分の力でできた。」と満足感を味わわせることができたと考える。

授業で

「観点」に沿って読む力を身につける。



大草原の白い家
見わたすかぎりの草原に、白く美しいものがあります。近づく、その「観点①人々の暮らし」のような形をしているのが分かります。羊や馬を放牧して暮らす人々の家、ゲルスです。ゲルは、移動できる組み立て式の家で、水を手に入れ、移動できる組み立て式の家で、水を生かす所にあたります。家のほね組は木でできていて、そのほね組をフェルトでおおうと、すぐに家を組み立てることが出来ます。フェルトは羊の毛でできています。きびしい冬の寒さをしのぐことができます。

観点③その土地のくちよう

家庭学習で

図書室の本で「世界の家」を調べる。授業で身につけた「観点」に沿って読む力を生かし、「観点」に沿ってまとめてくる。

土地のくちよう
気温が-30℃~40℃に下がるときがある。寒さがきびしい。
・氷と雪におおわれ、植物が育たず、のつこうができない。
・木材や石がない

人々の暮らし
・移動しながら、魚やアガラシなどをとって生活している。

ざいりようやつくり方の工夫
・寒い風をよけるため、トンネルのじくを少し曲げてつくる。

他の世界の家も「その土地のくちようや人々の暮らしに合わせた家のつくり」になっているのかな。調べてみよう。

授業で

単元最後の言語活動「世界の家までイッテQブック」をつくる

自学では教科書じゃない文章でも観点に沿って読むことにチャレンジしたから、イッテQブックではいい文章が書けたよ。

【図⑨ 国語科活用・探究型家庭学習の実践例】

6:00 ~ 6:30 No.20 / 30 / 2k

ワクワクカナダの家のことについて調べよう。

調べた意味
先生が調べてきてよと言ったから。あと、「イッテキューブック」づくりに役立つから。

土地のくちよう
・気温が-30℃~40℃に下がるときがある。寒さがきびしい。
・氷と雪におおわれ、植物が育たず、のつこうができない。
・木材や石がない

人々の暮らし
・移動しながら、魚やアガラシなどをとって生活している。

ざいりようやつくり方の工夫
・寒い風をよけるため、トンネルのじくを少し曲げてつくる。

授業と家庭学習をつなぐ記述

寒さをふせぐため、ゆかや、かべに、動物の毛皮をしいたりはったりしている。
・天井は、人のせより、少し高い
2メートルくらい

伝えたいことに合わせて資料(絵)を載せる、表現力スキル

感想
国語の時、役に立ちそう。

①絵がある。
②とくになし。

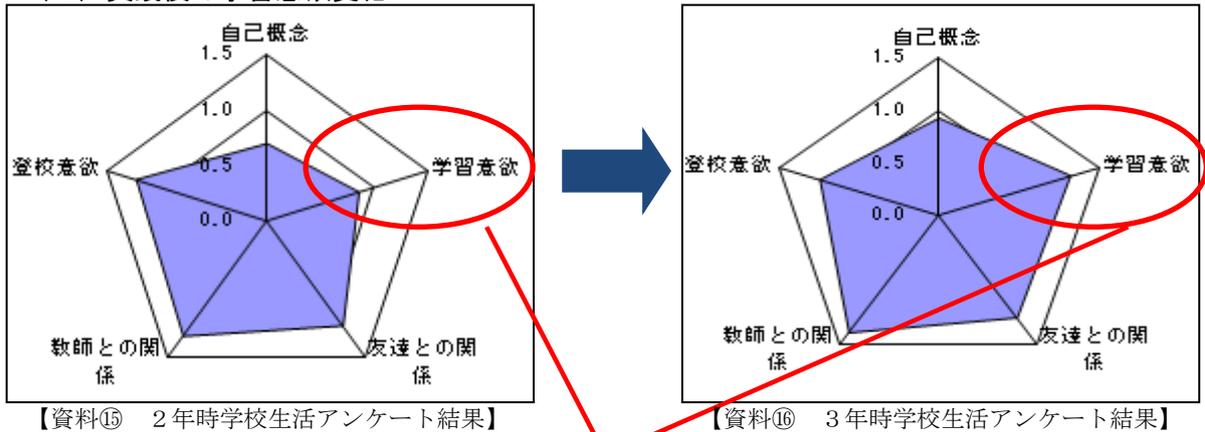
マイナス40℃。どのくらい寒い？
れいとう室-20℃ 北きょく-40℃
日本のさいてい気温-41℃
世界で一番寒い場所-70℃
れいとう室より寒いなんて……

③-70℃なんて想像できないうちのれいとう室の家の調べたこと

【資料⑭ 国語科活用・探究型家庭学習の実践例⑤の自主学習ノート】

7 全体考察

(1) 実践後の学習意欲変化



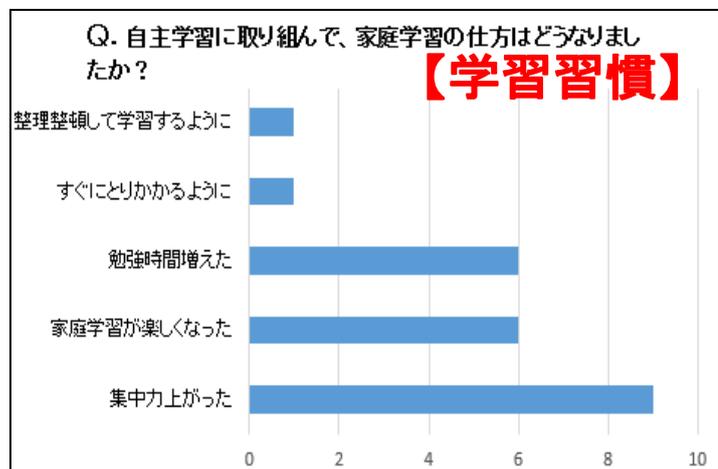
【資料⑰ 2年時・3年時学校生活アンケート〈学習意欲〉の質問項目比較】

資料⑮⑯は、市で統一で学期毎に実施している「学校生活アンケート」において、質問項目を5つの項目に分けて学級平均を出したものである。2年時と比べると、学ぶ意欲の項目は上がっていることが分かる。資料⑰は学習意欲に関する質問項目の回答割合を取り出したものであるが、2年時と比べ「勉強が楽しい」、「勉強への努力」について「よく当てはまる」と答えた児童が多いなど、学ぶ意欲の向上が見られる。

(2) 手立ての有効性

① 児童アンケートより

資料⑱～⑳は、「授業と家庭学習をつなぐ自主学習ノート」の実践の成果を確かめるために【ノートスキル】、【学習習慣】、【手立てと学ぶ意欲向上の関連】について尋ねたアンケートである。全て自由記述であり、それを項目ごとに整理した。



【資料⑱ 自主学習〈学習習慣〉アンケート結果】

学習習慣は、特に家庭での学習の集中力が上がった、家庭での学習が楽しくなった、学習時間が増えたと記述している子が多く、よい学習習慣が身につけていることが分かる。

また、ノートスキルは特に色や図、絵の効果的な使い方などで成長したと感じ

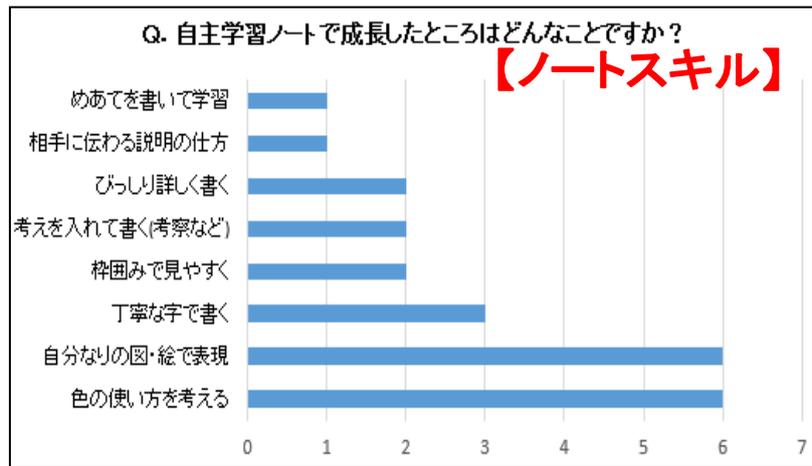
ている子が多く、学習習慣は家庭での学習の集中力、学習時間、学習の楽しさを感じるようになった子が多い。これは、【自主学習の基盤をつくる】段階において、自分で求めて学ぶ学び方を〈学習習慣〉・〈ノートスキル〉の2点から丁寧に指導したことによる効果であると考えられる。さらに、【自主学習を定着させる】段階において、学校と家庭がしっかり連携し、家庭では学習環境づくりと見届け・励ましを、学校では細かなノートスキルの指導、学習内容の選択法、成長を価値づける評価を繰り返したことによる成果である。

【実践によって得られた学ぶ意欲の高まり】については、特に学習の理解、学ぶことの楽しさ、やる気について高まりが見られる。これは、授業と家庭学習をつなぐ自主学習に取り組んだことで、子ども達が家庭学習の効果が分かり、自分で学習内容を工夫するということに楽しさや達成感を感じることができたからだと考える。

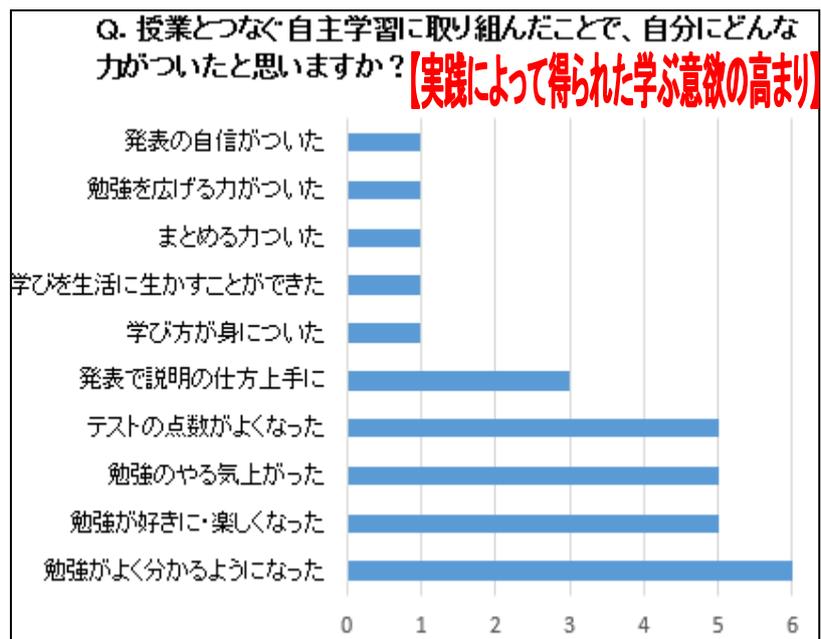
②保護者アンケートより

保護者アンケートからも、自主学習の効果が感じられる。(P22. 資料②、③) 特に、自分から進んで家庭学習に取り組むようになった、自分で気になることを掘り下げて楽しみながら

調べているなどの回答があり、「学ぶ楽しさを味わいながら、自ら求めて学ぶ」姿が分かる。



【資料⑱ 自主学習〈ノートスキル〉アンケート結果】



【資料⑳ 自主学習〈実践によって得られた効果の高まり〉アンケート結果】

何しとかは、早くで1000Lになるかわり
 らなかったけど、わたしは自学でそのおべんきょう
 をしたら1Lは1000Lとおぼえたのでもっと
 がんばりたいと思いました。

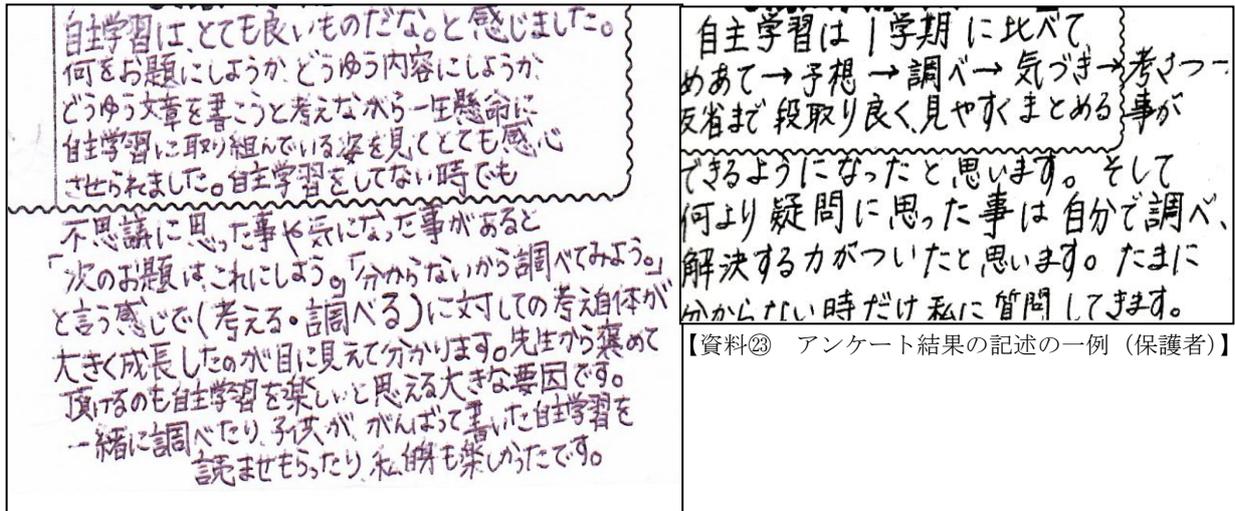
自学を楽しくできたおかげで、しぜんに勉強
 する力がついて、やる気がグングン上がった。

【資料㉑ アンケート結果の記述の一例(児童)】

Q. お子様の様子を見られて、何か自主学習の効果を感じられましたか？あればお書きください。

- ・考える力、調べる力が上がった。やる気が上がり、夢中になって学習していた。
- ・疑問に思ったことを調べ、解決する力がついた。
- ・普通の宿題と違ってやらされている感じがなく、楽しそうにしていた。
- ・分からなかったことが分かると、楽しそう。そして、もっと知りたいと思うようだった。
- ・気になることは、本（または教科書）を使って、自分で調べる習慣がついた。
- ・本を使って調べるので読書量が増えた。
- ・自分から進んで勉強するようになった。積極的に勉強している。 など

【資料② 保護者から見た自主学習ノートの効果アンケート結果】



【資料③ アンケート結果の記述の一例（保護者）】

7 成果と課題

(1) 成果

- 「学習内容」を選択する力と家庭での「学習スキル」を「自主学習の基盤づくり」→「自主学習の定着」→「効果的な自主学習」と段階的に指導したことは、「授業と家庭学習が両輪となって学習効果を高める」ために有効であった。
- 子どもが家庭で、授業の内容を復習する「習得型」と授業を発展させたりして調べる「活用・探究型」学習において、自主学習してきたことを意図的に授業に取り入れたことは、子どもが家庭学習の意義を感じる上で有効であった。
- 学校だけでなく家庭も巻き込み、教師と保護者両方から、自主学習の内容の良さやまとめ方の優れている点やもっと改善するとよい点を評価したことは、子どもが自信をもって学んでいく上で有効であった。

(2) 課題

- その子の課題に合った家庭学習ができるように、本人の課題を分析し、個に応じた指導をする。その実践をもとに、低学年・高学年の家庭学習へと広げていく。

<参考文献>

- ・「子どもの力を引き出す 自主学習ノート 実践編」
(伊垣 尚人 著、株式会社 ナツメ社 発行、 2013年5月30日出版)
- ・「子どもの力を引き出す 自主学習ノートの作り方」
(伊垣 尚人 著、株式会社 ナツメ社 発行、 2013年4月20日出版)
- ・「秋田県式 家庭学習ノート」
(主婦の友社 編、株式会社 主婦の友社 発行、 2010年4月20日出版)
- ・「学習指導要領解説 総則編」
(文部科学省 平成29年7月)
- ・「高めよう！学ぶ意欲 育てよう！学習習慣」
(福岡県教育センター 平成20年)